学校番号	２１０

令和３年度　音楽科（ソルフェージュ）

教科	音楽	科目	ソルフェージュ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・吹奏楽コースにおけるソルフェージュの授業では、演奏に必要な基本的な読譜能力を養うことだけでなく、実際の楽器演奏にいかせるソルフェージュ能力を身につけることを目標に考えています。視聴や聴音で取り上げる教材が、コンクールや演奏会で取り上げる曲を早く正確に演奏することにつながっていると思って、授業に取り組んでください。

2　学習の到達目標

音楽を形づくっている要素を正しくとらえ、音楽性豊かな表現をするための基礎的な能力を養う。
楽譜を正確に早く読譜する能力を身につけて、楽器演奏技術を効果的に向上させること。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:音楽への関心・意欲・態度	b:音楽表現の構想と工夫	c:音楽表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうする。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図を持っている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技術を身に付け、創造的に表している	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさ創造的に味わって聴いている。
評価方法	観察、 プリント	観察 プリント	実技テスト 作品の提出	観察 レポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	視唱・聴音	【視唱】 基本的な教材から、実際の楽曲につなげていく 【聴音】 優しい聴音から、段階を経て実際の楽曲を用いて、つなげていく。	○	○	○		a:視聴や聴音の学習に体的に取り組もうとしている。 b:音楽を形作っている要素を理解しながら、ソルフェージュ能力を養う。 c:表現したいことを伝えるためのソルフェージュ能力を身につけている。	観察 演奏の聴取
1	器曲を用いて	【器楽を用いたソルフェージュ】 コンクール課題曲や自由曲の楽曲を用いて、ソルフェージュの能力を養う。	○	○	○		a:器楽を用いてのソルフェージュの学習に主体的に取り組もうとしている。 b:コンクール関係曲の形作っている要素を理解しながら、ソルフェージュ能力を養う。 c:コンクール関係曲の表現したいことを伝えるためのソルフェージュ能力を身につけている。	観察 実技テスト
2	楽曲を用いて	【楽曲を用いて】 いろいろな楽曲を使い、ソルフェージュ能力を養う。	○	○	○		a:いろいろな楽曲を用いてのソルフェージュの学習に主体的に取り組もうとしている。 b:いろいろな楽曲の形作っている要素を理解しながら、ソルフェージュ能力を養う。 c:いろいろな楽曲の表現したいことを伝えるためのソルフェージュ能力を身につけている。	観察 実技テスト

3	多様な楽曲を用いたソルフェージュ	【視聴・器楽】 器楽・歌唱で総合的なソルフェージュ能力を養う。	○	○	○	○	a:総合的なソルフェージュの学習に主体的に取り組もうとしている。 b:様々な楽曲の形作っている要素を理解しながら、総合的なソルフェージュ能力を養う。 c:様々な楽曲の表現したいことを伝えるための総合的なソルフェージュ能力を身につけている。 d:アンサンブル曲を鑑賞して総合的なソルフェージュ能力を養う。	観察 実技テスト

※　表中の観点について　a:音楽への関心・意欲・態度　b:音楽表現の構想と工夫
c:音楽表現の技能　d:鑑賞の能力

※　原則として、「歌唱」「器楽」「創作」の分野は、a,b,c の３観点で、「鑑賞」の分野は一つの a,d の２観点で評価する。

※　年間を通して全ての観点について評価することとなるが、学習内容（題材）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。